

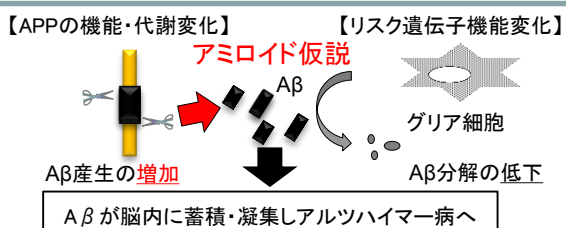
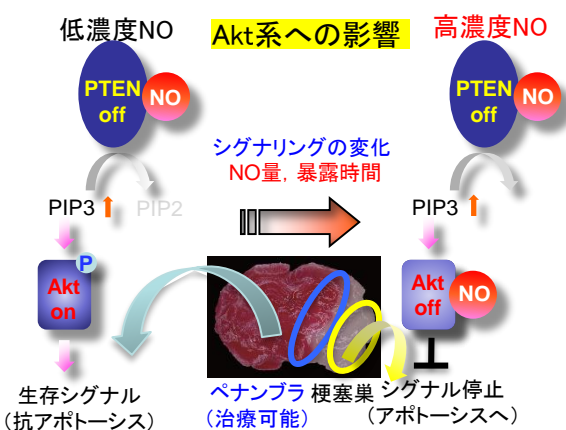
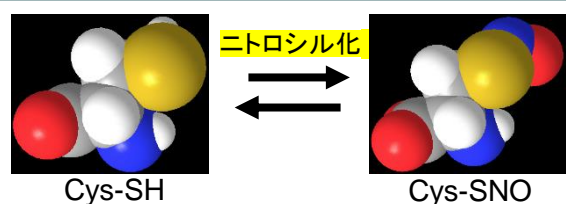
生体薬物制御学講座 — 薬効解析学分野

Department of Medicinal Pharmacology

酸化ストレスの実態に迫り、 病態発症機序を分子レベルで解析する



薬効解析学では、酸化ストレスの中、とくに一酸化窒素 (NO) が介在するニトロソ化ストレスによる病態生理機構を中心に研究しています。これまでに多くのNO標的タンパク質の同定に成功し、その酸化修飾が及ぼす影響や生理的/病態生理的役割について証明してきました。最近では、NO修飾を特異的に阻害する化合物の開発に成功し、薬理学的手法からその有用性を検証しています。自分たちの実験から得た成果を応用して、「新規診断法」の開発や「シーズ化合物」の探索を手がけています。



研究内容

- NOや親電子性物質の分子作用メカニズム
 - ・ 新生タンパク質成熟・分解系
 - ・ 小胞体ストレス応答系
 - ・ ユビキチンプロテアソーム系
 - ・ 細胞増殖シグナル
 - ・ エピジェネティックス系
 - NO修飾阻害薬の開発・適用
 - ・ 炎症性がん
 - ・ 神経変性疾患
 - ・ アレルギー疾患
 - ・ 糖尿病
 - アルツハイマー病関連 (高杉准教授)
 - ・ 脂質フリッパーゼの役割
 - ・ S1PによるAB β 産生・分解制御
- Nature 2006; Science 2005; PNAS 2004, 2011; JBC 2000, 2002, 2006; Sci Rep 2015, 2016, 2017 etc
- Nature 2003; JBC 2002, 2005, 2007; J Neurosci 2011; PLOS one 2013; J Alzheimer Dis 2017 etc

連絡先/岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 生体制御科学専攻 薬効解析学 (上原 孝)

〒700-8530 岡山市北区津島中1-1-1

Phone & FAX: 086-251-7939 E-mail: uehara-t@okayama-u.ac.jp

URL: http://owl.pharm.okayama-u.ac.jp/lab/yakuri/Uehara_Lab/Welcome.html